

# Heart Port Sendai

## No.28 はあとぽーと通信

仙台市精神保健福祉総合センター

URL  
<http://www.city.sendai.jp/kenkou/seishinhoken/heartport/index.html>

発行 2007年1月1日  
編集 仙台市精神保健福祉総合センター  
(はあとぽーと仙台)  
仙台市青葉区荒巻字三居沢1-6  
電話 022-265-2191

### Contents

2 はあとぽーと仙台退院促進支援事業

3 はあとぽーと仙台デイケア祭

4 こころの健康フェスティバル 2006

## 精神に障害がある方が地域で生きる時代へ

### 精神科病院における長期入院問題

障害のある方が社会の様々な場面で活動する機会が時代の変化とともに増えてきました。障害のある方に関する福祉施策の充実と、人々の意識の変化により、ご本人やご家族だけが苦勞するのではなく、社会全体で障害のある方を支える時代になってきています。重い障害のある方でも、施設中心の暮らしではなく可能な限り地域で暮らすという考え方が、広がってきています。

これは、精神に障害のある方についても例外ではありません。一昔前は、精神疾患に対する誤解と偏見が今よりももっと根強かったこともあり、精神に疾患や障害のある方については、入院しているしかなかったというのが一般的でした。

このような理由から、精神に障害のある方を支えるための福祉施策等は、ほとんど存在しませんでした。

やがて精神医療の進歩により、精神に疾患や障害を持つ方でも、地域で暮らしていける程の回復が可能になりました。時代の流れとともに福祉サービスも少しずつ整備されてきました。そのため現在では入院が長期化することが少なくなったばかりか、通院治療を続けながら地域で暮らしていくことが十分に可能になってきています。

しかし現実には、病状面では入院の必要性がないにもかかわらず、退院できないまま入院を続けざるを得ない方々が、精神科病院には残っておられます。だいたい和らいだとはいえ、精神疾患への誤解や偏見がまだ強いのも事実であり、地域での受け入れ態勢が整わなければ、退院が難しい場合が多いのです。地域での拠点を一旦失った方が新

たに家を借りることは決して簡単ではなく、ご家族も様々な事情で受け入れが難しくなっている場合が多く、結局入院を続けざるを得ない状態になってしまいます。何十年も入院したまま退院することなく、そのまま一生を終える方も少なくありません。

### 退院に向けた様々なとりくみ

近年の精神科病院では、入院してもなるべく短い期間で退院ができるよう努力が重ねられてきました。そして、これまで長期入院をしていた方々の退院を実現させる取り組みを積極的に実施している病院もあります。病院のみならず、保健福祉関係者の努力もなされてきました。

しかし、時代の変化に伴い複雑な背景を抱えて入院してくる方が精神科病院では新たに増えており、各関係機関の方々も多忙な状況にあるのが実情です。そのため、長期入院の方の支援について関係者の個々の努力だけではなかなか手が回りきらないという事情があります。

長期入院中の方の退院を実現する組織的なとりくみは、平成12年に大阪府で開始され、一定の成果をあげてきました。その後、大阪府の取り組みを参考に、平成15年度から国の事業として全国各地で退院促進支援事業が行われるようになり、宮城県内の各地でも開始されました。仙台市においても多くの精神科病院があることから、退院促進支援事業に今年度より着手したところです。次頁において詳しくご紹介いたします。

ナイトライン

(022) 217-2279

時間 18:00~22:00

こころの健康について  
電話でご相談ください。



はあとライン

(平日のみ)

(022) 265-2229

時間 10:00~12:00 13:00~16:00